

医療情報部

1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

部長（教授） 小西 宏明
副部長（教授） 佐田 尚宏
看護師長 大柴 幸子
看護主任 栗原日登美
事務 10名

2. 診療部の特徴

電子カルテ稼働（2006年2月14日）から7年を超えた。システムの維持管理業務をこなしながら、次期システム更新への構想を検討し始めている。

3. 活動内容、実績

①システムの更新

本年度は多くの部門システムが更新を迎えた。臨床検査、細菌、内視鏡、病理、眼科、自動再来受付、患者案内表示の各システムである。電子カルテ本体のみならず接続している部門システムは現在30余りとなり、今後これらの定期更新は本体の更新と合わせて大きな検討課題である。

②感染症管理システム

新規開発を進めているシステムである。

一般にデジタル情報の取り扱いに職員が習熟してくると、蓄積されたデータを集計分析することによって得られる新たな情報が欲しくなる。いわゆるデータの二次利用または付加価値を有するデータの抽出である。本システムはまさにこのような現場の要望から生まれた。コマーシャルベースにのったシステムを導入するだけではなく、現場の要求に沿った新しいシステムを構築していくことは、大学病院の重要な役割であり、今後同様のシステム構築は増加するものと考える。

4. 事業計画・来年度の目標等

稼働から満7年、病院情報システムは病院機能のライフラインとなり、小さな障害であっても診療に与える影響が大きい。あと数年はマイナーチェンジを繰り返しながら安定稼働を維持し、合わせてデータの2次利用を推進する。

一方で普段からデジタル情報に接するようになると、ともすれば取り扱いがルーズになりがちである。データのセキュリティについては大学法人としてのセキュリティポリシーとの整合性を担保しながら取り組みを継続する。